

令和4年2学期終業式 式辞

皆さん、おはようございます。校長の山本です。

今朝は、久しぶりの雪景色に驚きましたが、今年を締めくくるにふさわしいホワイトクリスマスとなりました。

さて、私にとっての2022年、令和4年は、ロシアのウクライナへの侵攻で始まり、サッカーの世界カップで終わろうとしている一年でした。皆さんにとっての2022年はどうのような一年でしたか。

ところで、皆さんは「人生は二度ない」という、このことを意識していますか。人生は一度きりでやり直しのきかないもの。当たり前のことであると同時に、このことは人が生きる上で最も大切な真理の一つになります。

今年、皆さんは人生でこのたった一度しかない15歳の、16歳の、また17歳の1年間を有意義に過ごしましたか。

ワールドカップの日本代表の試合後のロッカールームで「もうすぐ今日が終わる。やり残したことはないかい」で始まる、有名な歌が流されていました。私も仕事終わりの帰り道で、時々口ずさんでいます。

皆さんにとっての、この2022年、令和4年を振り返ってみてください。心に残るような、充実感のある「何か」に出会えましたか。

朝起きて、学校に行って、適当に授業に参加して、放課後も特に何をするではなしに、TikTokやYouTubeの意味のない画像を夜遅くまでだらだらと見て、一度しかない大切な時間を無駄にしていまませんでしたか。

人生は面白おかしく、好きなことだけをして過ごしていけるものでは決してないと思います。むしろ人生は、毎日毎日奥歯をかみしめて、向かい風や上り坂に耐えながら一步一步前に進み続けるものである。60年以上の歳月を過ごしてきた中で、心からそう思います。

その歯を食いしばって続ける努力の成果は、簡単には目には見えない変化かもしれません。しかし、日々の努力は必ず人生のどこかで、充実感や満足感としてその人にかえてくることとなります。

もうすぐ今年が終わります。皆さんは今年、一生忘れないような出来事に出会えたでしょうか。かけがえのない時間を胸に刻み込んだでしょうか。

もし、10年後、20年後に感慨をもって思い出せるような出来事に出会えなかった人は、新しく始まる次の年には、同じ過ちをしないようにしてほしいと思います。「人生は二度ない」この言葉を改めて心に刻んでほしいと思います。

最後に、今も歯を食いしばって努力を続けているであろう、一般入試をめざしている3年生の皆さん。その努力は必ず自分の人生にとっての宝物となります。ゴールまではあと少しです。最後まで強い意思をもって頑張ってください。心から応援しています。

それでは、皆さん、良いお年をお迎えください。